

中央教育審議会高大接続特別部会 審議経過報告(概要)

1 高大接続・大学入学者選抜を巡る現状と課題

- 大学進学者の多様化
 - ・大学・短期大学への進学率:38%(S50) → 55%(H25)
 - ・知識基盤社会の進展に伴う、高等教育へのニーズの高まり
- 大学入学者選抜の選抜機能の低下
 - ・志願者に対する入学者の割合(収容力):73%(S50)→92%(H25)
- 高校生・大学生の学習時間の減少や学習意欲の低下
- AO入試等の一部における事実上の学力不問入試
 - ・国公立全体で4割以上の学生が推薦入試・AO入試で入学
- 選抜性の高い大学における1点刻みによる学力検査への偏重
- 大学入試センター試験の肥大化と実施体制の限界
 - ・多数の出題教科・科目、50万人を超える大学入学志願者が同時受験

2 高大接続・大学入学者選抜の改善についての基本的な考え方

- 高等学校から大学までを通じて、主体的に学び考える力等、これからの時代に必要とされる力を育成することが重要
- このため、高等学校教育、大学教育とその接点である大学入学者選抜との一体的な改革が必要
 - ・高等学校教育の質の確保・向上
 - ・大学教育の質的転換
 - ・能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する大学入学者選抜への転換

3 高等学校教育の質の確保・向上

- 学校から社会・職業への円滑な移行促進
 - ・体験的な学習活動を効果的に活用したキャリア教育の推進
- 多様なニーズに対応した教育活動の推進
 - ・学び直しが必要な生徒や、優れた才能や個性を有する生徒への対応
- 幅広い資質・能力の多面的な評価
 - ・新たな評価手法の開発・普及、指導要録の見直し
 - ・育成すべき資質・能力を一層重視した高等学校の教育課程の見直し
- 達成度テスト（基礎レベル）（仮称）の在り方（別添☆）

4 大学の人材育成機能の強化

- 大学教育の質的転換
 - ・各大学の取組を促進するための国の重点的支援や大学評価の改善
- 大学入学後の進路変更の柔軟化
 - ・募集単位の大くくり化と入学後の学修支援・進路相談体制の充実
 - ・学部・学科を超えた履修機会の拡大(副専攻制度等)
 - ・編入学等の推進
- 厳格な成績評価の推進
 - ・GPA等の成績評価・管理システムの進級判定や卒業認定等への活用
 - ・定員管理の弾力化(定員超過のカウントからの留年者の除外)

5 大学入学者選抜の改善

- 多面的・総合的に評価する大学入学者選抜への転換
 - ・各大学におけるアドミッション・ポリシーの明確化、国による策定事例集やガイドラインの作成
 - ・大学入学志願者に関する多面的な情報の提供、収集(調査書の活用・様式の見直し等)
 - ・様々な学習成果、活動歴を評価する枠組みの整備(資格・検定試験や課題探究型学習の成果物の活用等)
 - ・多様な能力等を評価・判定するための手法の開発・普及(言語運用力、数理分析力等を測る総合型問題の研究開発等)
- 推薦・AO入試の改善
 - ・学力把握や合格発表期日に関するルール策定
- 各大学の取組を促進するための方策
 - ・各大学における入学者選抜実施体制の整備
 - ・各大学の改革の取組に対する国の重点的支援等

6 達成度テスト(発展レベル)(仮称)

- 達成度テスト(発展レベル)(仮称)の在り方(別添☆)

7 高等学校教育と大学教育の連携強化

- 大学の積極的な情報提供
- 大学レベルの教育に触れる機会等の充実
- 大学入学前の準備教育や入学後の初年次教育の充実

「達成度テスト(発展レベル)(仮称)」

◆目的

- 「達成度テスト(基礎レベル)(仮称)」の構想(高等学校段階における基礎的な学習の達成度の把握等)を踏まえ、これからの大学教育を受けるために必要な「主体的に学び考える力」等の能力を測ることを主たる目的とする。

◆対象者

- 大学入学志願者を主たる対象とするが、大学で学ぶ力を自ら確認したい者の受験を可能にする方向で検討

◆内容

- 知識・技能のほか、知識・技能の活用力(思考力、判断力、表現力等)や高校生活全般を通じて育成される汎用的能力等の測定を重視
- 活用力や汎用的能力等を測定する観点から「合教科・科目型」や「総合型」の導入に向けて専門的に検討
- 「教科型」の出題については、「達成度テスト(基礎レベル)(仮称)」との関係や教科・科目数等を勘案しつつ検討

◆実施方法

- 記述式やコンピュータによる出題・回答の方式(CBT方式)の導入に向けて専門的に検討
- 年度内複数回実施については、高等学校教育への影響や試験実施体制等を考慮しつつ検討
- 知識偏重の一点刻みの選抜からの脱却の観点から、段階別や標準化点数、百分位等による成績提供に向けて専門的に検討

「達成度テスト(基礎レベル)(仮称)」

◆目的

- 高校教育の質の確保・向上に向け、生徒が自らの高校教育における基礎的な学習の達成度の把握及び自らの学力を証明することができるようにし、それらを通じて生徒の学習意欲の喚起、学習の改善を図る

◆活用方策

- 結果を高等学校の指導改善に活かすこと
- 推薦・AO入試や就職時に基礎学力の証明や把握の方法の一つとして、その結果を大学等が用いることも可能とすること

◆対象者

- 高校生の個人単位での受検又は学校単位での受検(希望参加型)

◆内容

- 国語、数学、外国語、地理歴史、公民、理科を想定(選択も可能) ※教科融合型問題を含めることも検討
- 各学校・生徒に対し、成績を段階で表示(各問題の正誤や正答率等も表示)

◆形態

- マークシートを原則としつつ、一部記述式も検討

◆実施方法

- 年間2回程度受検機会を提供、高校2・3年での受検を検討(※高校1年からの受検も可能とするか検討)
- 年間の実施時期は、夏から秋までを基本として学校現場の意見等を聴取しながら検討
- 実施場所は、高校(学校単位)又は都道府県ごと(個人単位)に会場を設ける方向で検討

◆その他

- 「高等学校卒業程度認定試験」と統合する方向も含めて検討